

第 12 期環境市民会議の総括

「環境市民会議」は、武蔵野市の環境の保全に関する基本的事項について調査、審議するために「武蔵野市環境基本条例」に基づいて設置された機関である。

＜武蔵野市環境基本条例より抜粋＞

第 16 条 市の環境の保全に関する基本的事項について調査し、及び審議するため、市長の付属機関として、市民、事業者等により構成する武蔵野市環境市民会議（以下「市民会議」という。）を置く。

2 市民会議は、次に掲げる事項を調査し、及び審議する。

(1) 環境基本計画に関すること。

(2) 年次報告書に関すること。

(3) その他環境の保全についての基本的事項に関すること。

3 市民会議の組織及び運営について必要な事項は、規則で定める。

第 12 期環境市民会議の任期は、令和 3 年 12 月～令和 5 年 12 月である。下表のとおり全 4 回の会議で議論された内容を報告する。

表 第 12 期環境市民会議の内容

回	年月日	内容
1	R4. 1. 14	委嘱状の交付／副市長挨拶／委員自己紹介／委員長、副委員長の互選／環境市民会議の運営について／武蔵野市環境市民会議について／第五期武蔵野市環境基本計画について／武蔵野市地球温暖化対策実行計画2021の改定について
2	R4. 8. 30	令和 3 年度版 武蔵野市の環境保全（案）について／気候市民会議について
3	R5. 8. 24	令和 4 年度版 武蔵野市の環境保全（案）について
4	R5. 12. 19	気候危機打開！むさしの市民エコアクションについて／第12期環境市民会議の総括

第 1 回（令和 4 年 1 月 14 日開催）

内容

- 第五期環境基本計画は、市の行う環境施策について大きな方向性を示す計画として、環境について取り扱う他の計画の内容を横断的に取り扱う。
- 第五期環境基本計画の進行管理は、環境方針ごとに総合的な視点で評価することにより行う。評価は年次報告書に記載し、環境市民会議の審議を受けるとともに、市民に公表する。
- 武蔵野市地球温暖化対策実行計画 2021（区域施策編・事務事業編）を、国の地球温暖化対策計画の見直しに伴い、令和 12 年（2030）年度の削減目標値を上方修正するかたちで令和 4 年 4 月に改定する。

委員の意見

<第五期環境基本計画について>

- 環境基本計画は市の行う環境施策の大きな方向性を示しているというが、何をどの程度やっていくのか、ある程度踏み込んで施策を展開しないとカーボンゼロは到底達成できない。定量的な目標や具体的な施策は環境基本計画ではなく、その下位の計画で明記されているという理解でよいのか。(委員)
- 定量的な目標は個別の計画で個々に立てられている。環境基本計画は、横断的な視点で、包括的にバランスを考えて作られているため、抽象的な表現となり数値目標の記載はない。そうすると計画がどのように達成されているのか結果が見えづらいが、それは各部署の実績を取りまとめた年次報告書で確認していくことになる。(委員長)
- 基本計画の中に定量的な目標を全体像として示さなければ、個別計画を定める際に、各部署の出来る範囲でしか取り組まないことにならないか。この分野ではこのぐらい減らすなど定量的な目標を見たうえで話をしないと、市全体でどこに力を入れて取り組むのか、決まらないのではと考える。(委員)
- 基本計画で具体的な数値目標を示すことも一つのやり方ではあるが、環境問題やCO2の問題は年々具体的な数値が変化するものであり、大きな数値の変更があったときに、改定作業が発生する。10年スパンで作成する基本計画に対し、下位計画にあたる実行計画は随時改定が可能であり、具体的な数値等は下の階層に落としたほうが作業しやすいという理解である。(副委員長)
- 自分が知らないところで環境基本計画のような資料が作られて議論されていることを知らなかった。市民自身がリサーチすることも大切だとは思いますが、もっと武蔵野市の環境について知るきっかけが多くあったら、親しみやすくなるのではないかと思います。(委員)

<武蔵野市地球温暖化対策実行計画 2021 の改定について>

- 数字を積み上げて作られる計画と生活実感はなかなか繋がりにくいと考える。数字の細かい積み上げよりも、市民の行動変容をどう起こすかに対して取り組むことがより重要である。(委員長)
- 区域施策編 P15「市民の取組（創エネ省エネ機器設置などに関すること）」をCO2の質量で表現するよりも、実際に各家庭で導入場合の金額の目安を示したほうが、市民の実感がわかりやすく、事業者側にも営業的な効果があるのではないかと。(副委員長)

<その他の意見、情報提供>

- むさしのエコreゾートは、施設があること自体知らなかった。コロナ禍で有効に使えない状況が続くと思うが、実際に見に行くなどの機会を作り、出来るだけ多くの人に触れられるようになればと思う。(委員)
- 家庭ごみのうち4割が生ごみと言われている。家庭の生ごみからはとてもいい堆肥が出来る。クリーンセンターでは持ち込まれた生ごみで堆肥を作り、屋上菜園で利用している。(委員)
- 生きものの素晴らしさを知ってもらって、その生きものがある環境を守ろうという意識

を持ってもらえるように心掛けている。生きものを通じて、自分たちにできる身近な環境配慮行動を考えてもらうことが大切だと感じている。(委員)

- 企業も環境問題に色々と取り組んではいるが、お客様に十分に伝えきれていないという課題がある。店頭では資源回収をしており、回収量等のフィードバックを大切にしているほか、小売企業としていつも心掛けているのが、お客様のモチベーション（例えばマイバックを持参していただくこと）を維持できるようにすることであり、そのために一緒にやっていきましょうという姿勢を見せることを意識している。(委員)
- 特に吉祥寺地域は店舗数が多く、ビジネスチャンスが多い立地である。商人は、環境面に関しては決められたことを守るという受け身の姿勢が多いように感じる。一方でレジ袋有料化に伴うエコバックの定着の速さを例に挙げられるように、日本人はモラルが高いので、一丸となって対応することが可能であると考える。(委員)
- エネルギー会社は化石燃料を売っていかなくてはならない立場であるが、CO2 の削減は社をあげて前向きに取り組んでいる。また、地球温暖化対策と同時に災害対策としてのエネルギーの確保に繋がるように取り組んでいる。さらに、環境啓発活動として小中学校に出向いて環境教育を行う出張授業を行っている。(委員)

第2回（令和4年8月30日開催）

内容

- 年次報告書は、武蔵野市の環境基本計画に基づき、市の施策・事業の成果をまとめたものである。
- 年次報告書の1章では、環境基本計画の事業の成果を掲載しており、2章では、事業所としての市の環境への取り組み（資源の省エネルギー化など）について記載されている。
- 武蔵野市気候市民会議は、無作為抽出などによって選ばれた市民が、地球温暖化・気候危機問題を共有し、脱炭素社会を目指してその対策について話し合っていく場である。
- 市は、会議の議論を踏まえ、市民一人ひとりの環境配慮行動を示す「気候危機打開武蔵野市民活動プラン（仮称）」を作成する。

委員の意見

<年次報告書について>

- 環境要素を個別に考察するだけでなく相対的な考察をすること、また、定量的な経年変化を追い、市の代表的な指標とすること、さらに、雨水貯留槽購入助成制度など、設置後もその効果が次年度以降に継続する性質のものについては、単年度の指標だけでなく累積的な指標を用いることを提案する。(委員長)
- 取得したデータを長期的視点で考察することが必要である。関連するデータを合わせてグラフ化し、長期的なトレンドを見ないと、今後何をすべきかということが見えてこない。データを可視化することで、どこに投資したらいいのか見分けやすくなる。(副委員)

長)

- 「2050年ゼロカーボンシティ」という定量的な目標を表明しているのだから、過去のフォーマットに捉われず、科学的に分析できる方向に転換してもいいのではないか。(副委員長)

<武蔵野市気候市民会議について>

- 温室効果ガスの即時削減につながらないとしても、市民一人ひとりの行動変容に働きかける会議が、むさしのエコreゾートで開催されたことに意義を感じる。(委員長)
- 報道でも取り上げられているので、他自治体または都・国レベルで気候市民会議が開催されるといった波及効果は期待される。(委員長)
- 会議は始まったばかりで単年度の予定ではあるが、この会議の持続性がどれくらいあるのか、続ける場合に具体的なテーマを設けた会議にするのか、といったことが今後の課題となるのではないか。(委員長)
- 啓発の場としては有意義だと思うが、会議の中で出てきた意見は現行の温暖化対策実行計画等に反映するのか。ヨーロッパにおける気候市民会議は、政策提言の場と理解している。(委員)
- 「市民の声が反映される」と思えるため、結果を示してもらうことが大事である。(委員)

第3回（令和5年8月24日開催）

内容

- 年次報告書は、武蔵野市の環境基本計画に基づき、市の施策・事業の成果をまとめたものである。
- 「計画に基づく施策の進捗の成果（総評）」部分について、全ての環境方針に共通する前提及び5つの環境方針に対して12の「環境指標」を設定し、各分野の施策の進捗状況、達成状況を計る目安とする。

委員の意見

<総評・環境指標（全体）について>

- 環境指標を取り上げるのは初めてである。指標が妥当かどうか、今後成熟させていく必要がある。(委員長)
- 総評について、実績のみでレビューが見えない。二酸化炭素排出量の増加に対して取ったアクションと、その結果へのレビューがあると良いのではないか。(委員)
- 環境市民会議での指摘を、各担当が具体的な施策として上に挙げていくことになる。施策反映にはタイムラグが生じる。(委員長)

<環境指標1（環境啓発施設への満足度）について>

- エコreゾートの認知度が低いことを示している。本格稼働となつてからの次回調査を

注視する。(委員長)

<環境指標 2 (人口 1 万人あたりの NPO 法人数) について>

- 他市との比較を意図する表であるが、質をどうしていくかが課題である。(委員長)
- 様々なジャンルで環境に携わる団体が増えることは、良いことである。(委員)

<環境指標 3・4 (武蔵野市内の二酸化炭素排出量・家庭における二酸化炭素排出量) について>

- CO2 排出係数の影響が強い。国一都一市という構図で独自に努力できる余地が少ないと言えるが、その中で地道に努力するというのが市のスタンスであると思われる。(委員長)
- 具体的な見通しがあるのであればよいが、現状予測では目標値に到底届かないということが深刻である。(副委員長)
- 市民意識でどこまで消費行動、生活スタンスを変えられるか、また変容を促せるかが課題である。(委員長)
- 二酸化炭素排出量の推移のグラフについて、中間目標値が達成されているように見えるため、色を修正して分かりやすく示してもらいたい。(委員)

<環境指標 7 (市民 1 人当たりの公園面積) について>

- 大きく見ると減少していないが、人口は増加するため、絶対面積をいかに増やすかが課題である。(委員長)

<環境指標 12 (雨水の流出抑制) について>

- 目標値が大変高いと言える。流出係数が高い場所にどれだけ貯留施設を設置できるかが課題である。(委員長)
- 関連する個別施策の標記が分かりやすい。他の指標でも示してもらいたい。(委員)

<各課の個別事業について>

- P72 のハクビシン・アライグマ対策事業について、アライグマは特定外来生物であるため、ハクビシンとの違いを記載してもらいたい。(委員)
- P40 の「備蓄食料の活用」の廃棄が出る事情について、仕方がなく廃棄しているものと察するが、可能な限り減らすべきである。(委員)